

セルトレイを利用したハマボウフウの育苗技術

福島県農業試験場 いわき支場
平成14～15年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 03-31-06000000

部門名 野菜－その他生葉及び香辛類－育苗

担当者 常盤秀夫・石井睦美

I 新技術の解説

1 要旨

ハマボウフウは、かつていわき地方の海岸に多く自生し、食材としても利用されていたが、乱獲等により現在は絶滅に近い。しかし、地域の植物資源として、あるいは特産品としての重要性は高い。また、経済栽培だけでなく自生地の復活をすることも地域資源維持のためには重要なことである。そこで、栽培の増加や自生地復活に活用できる簡易な育苗技術を確立した。

- (1) ハマボウフウの発芽率は本来低いが、播種前1ヶ月間の冷蔵あるいは土中埋蔵を行い、その後果皮を除去(写真1、2)して、3月下旬に播種することで8割以上の発芽率が得られる(表1)。
- (2) 38穴深型のセルトレイに播種し、50日程度育苗すると、苗の生育およびその後の生育が優れる(表2、3)。

2 期待される効果

ハマボウフウの効率的な増殖が可能になることから、営利栽培に取り組みやすくなる。また、自生地復活のための海岸への栽植が容易になる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

種子の土中埋蔵方法は、種子を網袋に入れ土中30cm深に播種前約1ヶ月間埋蔵する。種子の冷蔵方法は、種子とバーミキュライトを1:3に混ぜたものに水分を含ませ、5℃で播種前約1ヶ月間冷蔵する。
38穴深型トレイ: 口径54mm×深さ147mm

II 具体的データ等

表1 播種時期及び各処理がハマボウフウのセルトレイにおける発芽率に及ぼす影響

播種前の処理	果皮の有無	2002年3月27日播種(春まき)			2002年9月25日播種(秋まき)		
		4月17日	4月24日	5月15日	10月16日	10月23日	11月20日
無処理	果皮有り	3%	7%	38%	0%	0%	7%
	果皮除去	0%	19%	46%	3%	6%	8%
二中埋蔵	果皮有り	47%	93%	93%	13%	19%	22%
	果皮除去	79%	97%	97%	10%	17%	17%
冷蔵	果皮有り	6%	65%	79%	28%	40%	42%
	果皮除去	57%	92%	92%	60%	65%	65%

72穴セルトレイ使用、用土はヤシガラ：パーミキュライト＝1：1



写真1 ハマボウフウ種子（果皮有り）



写真2 ハマボウフウ種子（果皮無し）

表2 ハマボウフウ春播き苗の定植時の生育状況

セルトレイ	50日間育苗(5月定植)			82日間育苗(6月定植)		
	草高(cm)	直根長(cm)	直根重(g/株)	草高(cm)	直根長(cm)	直根重(g/株)
128穴セルトレイ	4.9	5.3	0.08	5.8	8.3	0.27
72穴セルトレイ	5.7	8.4	0.09	7.4	7.8	0.54
38穴セルトレイ浅型	5.7	6.8	0.09	8.0	7.7	0.53
38穴セルトレイ深型	5.5	5.6	0.14	10.4	14.0	1.08

播種：2002年3月27日

表3 ハマボウフウ春まき苗定植後の生育状況(調査日2002/7/31)

セルトレイ	50日間育苗(5月定植)		82日間育苗(6月定植)	
	草高(cm)	株張(cm)	草高(cm)	株張(cm)
128穴セルトレイ	14.3	31.5	9.4	16.8
72穴セルトレイ	15.0	39.5	10.3	19.7
38穴セルトレイ浅型	19.7	37.8	10.0	19.7
38穴セルトレイ深型	16.6	51.6	10.4	26.2

播種日：2002年3月27日

株張り：ハマボウフウを上から見た状態における短径

Ⅲ その他

1 執筆者

常盤秀夫、石井睦美、高橋 徹

2 主な参考文献・資料

なし